２０１８年（平成３０年）１０月１５日　月曜日
東奥日報　１０面　掲載

攻撃そつなし 光星快勝

初登板下山 6回1失点

第71回 秋季東北高校野球 第２日

第71回秋季東北地区高校野球大会は第2日の14日、秋田市のこまちスタジアムなどで2回戦計6試合を行った。県勢は、八学光星（第1代表）が専大北上（岩手第3代表）と対戦、12安打を浴びせるなど圧倒し、9−2の八回コールドで勝利した。弘前東（第2代表）は古川（宮城第2代表）と対戦し、延長十回裏、2死満塁から四球押し出しでサヨナラ負けした。15日の県勢は準々決勝で八学光星が羽黒（山形第2代表）とぶつかる。

（秋村有香、工藤俊介）

【八学光星−専大北上（岩手）】公式戦で初登板し、6回まで1失点に抑えた八学光星の下山＝秋田市のこまちスタジアム

きょうの試合

（左のチームが一塁側）
▷準々決勝
◇さきがけ八橋球場
羽　黒−八学光星
（12・30）

▽2回戦（秋田市こまちスタジアム）

八学光星	0	0	3	2	1	0	0	3	9
専大北上（岩手）	0	0	1	0	0	0	0	1	2

（八回コールド）
（八）下山、山田−太山
（専）高橋、齋藤、柴田−川村

▽三塁打　島袋、太山（八）
▽二塁打　近藤、下山（八）

【評】八学光星は三回、2死二塁から島袋が右翼線に適時三塁打を放ち先制、武岡と近藤も続き3者連続の適時打で3−0とリードを広げた。以降も犠打や盗塁を織り交ぜた巧みな攻撃で着実に加点。八回には単打や四球に続いて近藤が左越えに2点適時二塁打を放ち、9−2の八回コールド勝ちで快勝した。

8回表、八学光星2死一、二塁で4番近藤が左越え適時打を放ち2点追加

光星・下山

本職は三塁手 冷静投球光る

ヒーロー

「緊張したけど、仲間を信じて投げ切れた」。八学光星の先発下山＝弘前四中出＝はこの試合が公式戦初登板。サイドスローで最速136㌔の直球に切れのあるスライダーやシンカーを織り交ぜた緩急自在の投球で、六回まで5安打1失点で切り抜けた。

序盤は制球に苦しみ、ボールが先行する場面が多かった。得点圏に走者を背負うピンチが再三訪れたものの、信頼する仲間が後ろを守っていると思うと、本来の冷静な投球を取り戻せたという。

下山は先輩が抜けた夏の大会以降、いつでも登板できるよう打撃や守備以外に投球練習にも取り組んできた。

今大会に向けた盛岡大付（岩手）との練習試合で先発を任され、9回を2失点に抑える好投を見せた。「完投できる投手は少ない」（仲井監督）という今年の新チーム。本来は三塁手の下山がマウンドに立てることで、投手陣の厚みが増した。

下山は初登板を白星で飾ったものの、反省点はたくさんあると苦笑い。「今日の出来は60点。あらゆるプレーでチームを引っ張れる選手を目指したい」と決意を述べた。

（工藤俊介）

緩急自在、投手陣に厚み

主砲 頼れるスイング

○…八学光星の4番近藤は八回、2死一、二塁の場面で甘く入った高めの直球をフルスイング。「狙っていた球。打った瞬間に手応えがあった」という打球はレフトの頭上を越え、勝負を決定づける2点適時二塁打に。この試合計4打点を挙げる活躍でチームを勝利に導いた。

奈良県出身。田村（現ロッテ）と北條（現阪神）に憧れて八学光星に進学した。手首の強さを生かしたスイングスピードはチーム随一で、仲井監督からの信頼も厚い。「光星の4番として、情けないバッティングはできない。次もしっかり役割を果たす」。頼れる主砲は決意をにじませた。

八学光星	0	0	3	2	1	0	0	3	9
専大北上（岩手）	0	0	1	0	0	0	0	1	2

（八回コールド）
（八）下山、山田−太山
（専）高橋、齋藤、柴田−川村

▽三塁打　島袋、太山（八）
▽二塁打　近藤、下山（八）

【評】八学光星は三回、2死二塁から島袋が右翼線に適時三塁打を放ち先制、武岡と近藤も続き3者連続の適時打で3−0とリードを広げた。以降も犠打や盗塁を織り交ぜた巧みな攻撃で着実に加点。八回には単打や四球に続いて近藤が左越えに2点適時二塁打を放ち、9−2の八回コールド勝ちで快勝した